

県内3カ所で「低コスト造林研修会」を開催

1 はじめに

県内では、合板工場や木質バイオマス発電所へ安定的な原木供給を行うため、森林の伐採面積が増加しています。その一方で、森林資源確保のための再生林はその約3割しか行われていません。そこで林業技術センターでは、再生林を促進するため、「低密度植栽」、「一貫作業」、「下刈りの省力化」等の低コスト造林方法について、森林所有者、森林組合、市町村等に普及するとともに、実施上の問題等について意見交換を行う研修会を県内3カ所で開催しました。

2 研修会の概要

今回の研修会は、森林所有者が集まりやすいように、県央の矢巾町・紫波町（低密度植栽、下刈りの省力化、除草剤試験）、県北の二戸市（一貫作業）、県南の住田町（低密度植栽、気仙地方林業振興協議会共催）の3カ所の再生林地の現場で、林業技術センターの研究員、矢巾町、住田町、浄安森林組合、ノースジャパン素材流通協同組合の事業担当者に説明を行っていただきました。各現場での説明ポイントは次のとおりです。

(1) 矢巾町・紫波町（参加18名）

- ・カラマツの下刈りは、植栽後2年間実施で植栽木が成長し、省略できる場合がある。
- ・ha当たり2,500本植えと比較して1,000本植えは経費試算が約半分となる。
- ・除草剤を前生樹を主伐する前に全面散布することで、2年間ササの再生が抑制された。

(2) 二戸市（浄法寺町、参加16名）

- ・重機使用の地存えでは表土が剥げて、乾いた

が、カラマツの活着には影響が無かった。

- ・重機の使用により、作業員の疲労が軽減した。

(3) 住田町（参加22名）

- ・スギの植栽跡地にカラマツを4段階の密度で植え、現在経過を観察中である。

3 おわりに

研修会終了後アンケート調査を行った結果、いずれの会場でも森林所有者の多くが、「低密度植栽」と「下刈り期間の短縮」に興味を持ち、導入したい技術と回答していました。

再生林の低コスト化は、森林所有者の意欲高揚につながります。今後は、森林所有者が再生林を行いやすいよう、補助事業の活用なども加えた研修会を県内各地で開催したいと思います。



矢巾町（林業技術センター）



住田町（町有林）